



WORK ‘S 共同作業所

〒601-8036

京都市南区東九条松田町 62

TEL075-682-3201 fax075-682-3330

<http://www.mediawars.ne.jp/~saba>

Eメールアドレス saba@mediawars.ne.jp

第 **58** 号 2012. 3. 1

編集責任者 大崎雅彦

新年会に参加して

京都テルサで1月6日に新年会がありました。みんなで美味しいものを食べて、四月から体制が変わる話が少しありました。メンバーの思いを全部聞き入れられるか、わかりません。でも、出来る限りこれからの事もあって、話し合いがあつてメンバーの話を聞いてくれるそうです。メンバーで集まるのは最後になりました。同じメンバーで大きな場所での、お楽しみはこれで終わりです。

毎日たくさんの事を考えるとちょっと残念です。大きな行事がなくなるかもしれません。

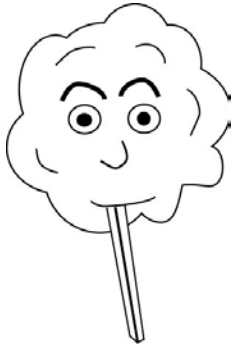
もっと話す機会がどんどん少なくなっていくと思います。それでも困らないようにしてくれました。これからたくさんの事にぶつかると思います。

最後に少しでも大事な話がありました。



鈴木 翔太

ワークス共同作業所は3月1日に京都府に障害者自立支援法の指定障害福祉サービス事業所多機能型申請書を提出いたしました。現在、許認可待ちの状況です。
新年会は京都府共同募金会から平成23年度NHK歳末助け合い寄付金をいただき開催いたしました。



夢わたがし

1月8日、今年、はじめての出店は、万福寺でした。日曜日、お天気も良く、いつもよりたくさんの人手がありました。

ワークスは、丹波のバリアフリーファーム農園でみんなで種を蒔き、みんなで選別したあずきと、一人暮らしの所員が持ってきてくれた大きな鏡餅で、甘いぜんざいをつくって、1月の寒さを吹き飛ばそうっていう作戦でした。

お茶やぜんざいの湯気に、人が立ち寄って下さる中、「綿菓子くださいーい！」と私たちの店に来て下さる方がありました。

ワークスの売る「夢わたがし」は「夢わたがし」っていう名前のザラメを使っているのでも「夢わたがし」なのですが、これが、色とりどり、オレンジ、ミドリ、黄色に白。そして色だけでなく味も色々。メロンだったり、レモンだったり、バニラだってあります。

「今日はイチゴはありませーん、だって砂糖が間屋にないんだもの」本当に正直者の綿菓子屋です。「マンゴはありませーん、だって、〇〇さんがオレンジとまちがえて買ってしまったんだもの」なんて日もあって、作る本人ですら、何色があるのかその日にしかわからない楽しい綿菓子屋です。ワークスの綿菓子がすごいところは、それだけではありません。

作り手Aさんは、大きなからだに合わせてとても大きな綿菓子を作ります。お客さんは「こんなに大きいのが100円なんて、ココ以外どこにも売ってない」ってみんなに宣伝してくれます。「いっぱい並んで待ってもらっている時は、少しくらい小さくても良いんじゃないの」って、私は思うのですが、10分待たせようが、30分待たせようが、彼はゆっくり時間をかけて大きな大きな綿菓子をつくります。私は自分が綿菓子をつくるようになって最近、気がついたのです。綿菓子は笑顔を売る商売だと。綿菓子を手渡すときの子どもの笑顔、「大きいね！！！」ってみんなで笑うその笑顔が、とっても幸せな、何にも変えられないひとときです。そう思うと、私は綿菓子作りがどんどん楽しくなってきました。

作り手Bさんは、「なんでこんなに人が並ぶんだろう！」って言いながら、たったか、たったか手を動かして綿菓子を作ります。編み物のように正確に均等に綿菓子を巻くので、ぼうしのような、UFOのような、すばらしい形の芸術品が仕上がります。「わー、大きなぼうしみたい」ってまたまた笑顔が広がります。私はBさんと交代した一本目は、よく似た巻き方しないとBさんの方がよかったなって思われるかなって思いながら、Bさんのまねをしてちょっと大きめに平べったく巻こうと努力するのですが、まだまだBさんのように巻けません。

この日、1月8日の作り手はCさんです。私は日頃Cさんに、「小さくてごめん」っていうより、

「どうぞ、あまくてとってもおいしいよ、ありがとう」って言って渡すほうが、うれしいよってアドバイスするのですが、Cさんは正直者。来て下さった男性のお客さんに、どのくらいの大きさですかって聞かれて、今日も「私は新米です、大きくなるか小さくなるか、まったくわかりませーん」って、きっぱりと大きな大きな声で叫んでしまいました。それを聞いていた子どもとおばさん。「いいよ、いいよ、どんなんでも。」こうして、Cさんは、その子どものために綿菓子一本、まきはじめました。

綿菓子を買ってくれた子どもはもちろん、ぜんざい食べてくれていたお客さんも、私たちのメンバー8人くらいも、みんな新米Cさんの手に、目が集中します。みんなに見られて、さらにドキドキするCさん。大丈夫かなと先輩Bさんもかなり心配そう。「落ちる！ 落ちそー、ハシから綿菓子が・・・」私も「どうか、正月そうそう、落ちませんように・・・」神頼みの心境です。ふと周りを見ると、たくさんの視線がCさんを応援しているように見えました。

「うまい、うまい」「大丈夫、大丈夫」「神様、仏様、ほていさま」

そして、なんとか最後までまき続け、じゃーんと出てきた商品は、こんもりふわふわ、でこぼこがあって、少し首をかしげ、不思議な形をした、大きな大きな真っ白な「みごとな綿菓子」でした。お客も店番もみんな拍手喝采、大きな笑顔が綿菓子の周りに広がり、「ありがとう！！」「よかった！！」

「上出来！！」どこからか、拍手がわきました。お客さんに褒めてもらったCさんはうれしそうにその綿菓子を、待っていた子どもに渡しました。綿菓子はキラキラ輝き、寒い境内が一瞬とても暖かくなりました。

横にいたDさんは「机を改良したら僕も作れるかもしれないね」って私にこっそり話し、初春の夢はさらに大きく広がりました。

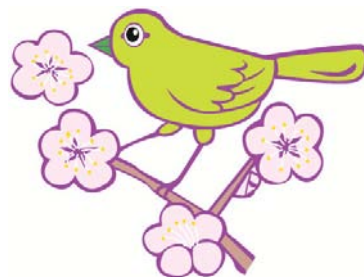
ワークスの綿菓子はお客様と一緒にみんなで作る綿菓子です。

その日によって色も味も形も大きさも違います。

(巻きとり加減で大きさは変わり砂糖の量はみんな一緒なんですよ)

今年はDさんがデビューしまーす。さてさてどんな、綿菓子が出来るでしょう。

今年もワークスの「夢わたがし」よろしく願いいたします。



2011合同忘年会について

去る12月20日(火)イオンモール京都4階の平林亭で合同忘年会を開催しました。

当日の夜は、寒くて少し雪混じりの天気でした。

私は座席番号が書かれたクジを参加者から貰い、座席まで案内したり、料理や椅子が何処に置かれているかを指示しました。ミニゲームの内容も説明していました。

忘年会参加者は50名以上で大盛況でした。

河野さつき

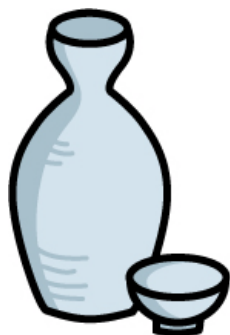


今回、初めて JCIL の介助派遣事業所とワークス共同作業所と本体(JCIL)が合同で忘年会をしました。内容としては各テーブルごとサイコロトークをしました。

参加人数60名、今回は交流をメインとしてしました。参加者どうしお互いに楽しむことができよかったですと思います。

また、このような企画が増えればいいなと思います。

JCIL 宇田隆



『今年の初詣のこと』

松田光博

今年は、元旦から家の近くの月読神社に3人でお参りに行きました。神社に行ったら人がいっぱいお参りに来ており順番に並びました。そのあと僕だけ歩いて松井の天神社までいきました。その後に散歩に行きました。3日は、お姉ちゃんの家族が家に来て4時ぐらいから温泉に入りに行きました。その夜はてっちりを食べました。おいしかったです。4日は、また一人で大阪天満宮にお参りした帰りに新大阪駅に寄って帰りました。6日はワークスに行く前に藤森神社に寄ってから新年会に行きました。7日は障害者福祉支援法の勉強会に行きました。14日に藤森神社で手作り市を見にそのあと帰りに歩いて伏見稲荷にお参りに行きました。いいお正月になりました。



昨年の春よりお世話になっている所員です。岩本夫妻と同じ送迎車で週二回通っています。

好きなものは、アート、食べ歩き、趣味は、服、クラシックバレエと宝塚の観賞ですが、今は資金が底をついたので小説やエッセイを書いて公募する、というつましい生活です。

どうつましいか自分でもわかりませんが、二兎を追う者、一兎も追えずにはならないようにしていきたいです。

写真も好きな所員より

NAKAJIMA'S EYES

時々、昔仕事をしていた写真植字屋さんって、今どうなっているのだろうか？と思う。
たぶん、もう倒産しているのだろうか。

今から20年以上前のことだが、夜9頃から朝8時頃まで、徹夜で仕事をしていたのを思い出す。
朝、帰宅する頃には、フラフラになっていた。でも、いくら仕事ができるようになって、本雇いにはしてくれなかった。そういう状態が10年以上続いた。入力機にいれる沢山の文字。この文字を「一寸ノ巾方式」という、独特の探し方で憶えさせられた。和文タイプを何年かやっていたが、それとは全然違う覚え方だった（手動写真植字機の時代だった）。

やがて写真植字機の業界にも技術革新が起こり、電算写植機やパソコンで入力する時代が到来する。
電算写植機やパソコンで入力する機械を使いこなす為、岡山県の「国立吉備高原職業リハビリテーションセンター」へ、13カ月の研修。始めの一カ月は職業適性訓練で、高卒程度の学力試験や色んな試験を受ける、これって結構難しかった。

電算写植機やパソコンで入力する、独特の「言語」。これを憶えるのも大変だった。
ペラペラの8インチのフロッピーディスクの扱い難（にく）さ。それに36分の1mmまでの植木算（うえきざん）で、割り付けていく細かい計算の仕方。色んなことが、初めての体験だった。

この吉備高原職リハには、西日本の各県から色んな障害を持つ人が、多様な職業訓練を受けに来ていた。色んな人と出会い。色んな話をし、共に悩んだ。自宅へも遊びに行った。

そんな思い出と友達がいっぱい出来た。今から思えば楽しい研修期間だった。

研修が終わり、もとの職場へ、それでもやっぱり本雇いにはならなかった。勤務時間も、機械が空いて無いという理由で相変わらず、夜から朝までの作業。雇い主にしてみれば、「夜中じゅう」働いてくれるし、それに雇用保険もいらぬ。退職金も出す必要がない。会社にとっては色んな面で好都合なんだろう。でも仕事は面白く遣り甲斐もあった。賃金もこの時代では沢山貰っていた方だろうな。

アルバイトでも、仕事があり、働けたというのは有り難いことだったのかもしれない。
今、不況の時代。仕事も無く、働けない人が沢山いるのだろうか……………。

もうレーザー写植機の時代になってしまった……………。

『ワークスは動きます』

このBUGが出来るころには、カレンダーは3枚目になっているでしょう。3月はもう、切羽詰っています。ワークスは4月から生まれ変わります。

1996年の春、京都市南区の東、松の木町に始まった事務所は、現在、同じ南区松田町の西の端にあります。皆の思いを乗せて走りだしたワークス共同作業所は、16回目のこの春に、別の誰かの管理に落ちてしまう……。

それだけは避けなくてはなりません。自分の仕事、生き方を探し、開発するのに、それを他人に、管理され、サービスとして提供されるのは、極めて遺憾で憤る話です。

しかし背に腹は代えられない。お金は必要です。人は人として機会を均等に傍受するには、それ相応のお金が必要です。余分にはいりませんが、なければ動けません、だから移行します。

自立支援法の施設へ、就労支援B型と生活介護の多機能型の事業所へ、ワークスは動きます。

2012年3月

大崎雅彦

ある日の会話

A:「役所の人が、では後は事業所と契約して下さいって言ってよ。」

職員:「事業所ってワークスのことやで。」

A:「えー、事業所(3階は介助者派遣事業所でみんな「事業所」ってよんでいる)って3階のことやろ?」

職員:「ワークスも4月からは事業所っていうらしいよ、役所では。」

A:「??????」

- 11月25日(金) 作業所訪問研修、最終回
12月06日(火) 移行に関する会議(油小路事務所)
12月08日(木) ほていまつり(雨、パン売れ残り悔いを残す)
12月11日(日) 府身連PC教室、長岡京市(フォローアップ編)
12月12日(月) 職場体験受入れ14日まで
12月16日(金) バナナの寄贈
12月18日(日) 藤森手づくり市、スポーツセンタークリスマス会
12月20日(火) 日本自立生活センター・ワークス合同忘年会
12月28日(水) 仕事納め
01月06日(金) 仕事始め・新年親睦会(歳末たすけあい共同募金) 京都テルサ
01月13日(金) 作業所訪問研修(Ⅱ-1)
01月10日(火) 移行に関する会議(油小路事務所)
01月18日(水) 被災地より見学、被災地障がい者センターみやぎ石巻支部
01月20日(金) 作業所訪問研修(Ⅱ-2)
01月27日(金) 作業所訪問研修(Ⅱ-3)
02月03日(金) ふくしまつり実行委員会
02月03日(金) 作業所訪問研修(Ⅱ-4)最終回
02月07日(火) 移行に関する会議(油小路事務所)
02月19日(日) 藤の森神社手づくり市

編集後記

今年の4月からワークス共同作業所は移行します。

新たにスタートをします。

所員の人も職員の人もいそがしくしています。

段々と新しい人が増えています。

今回のバグは新しいメンバーさんと一緒に作りました。



松田光博